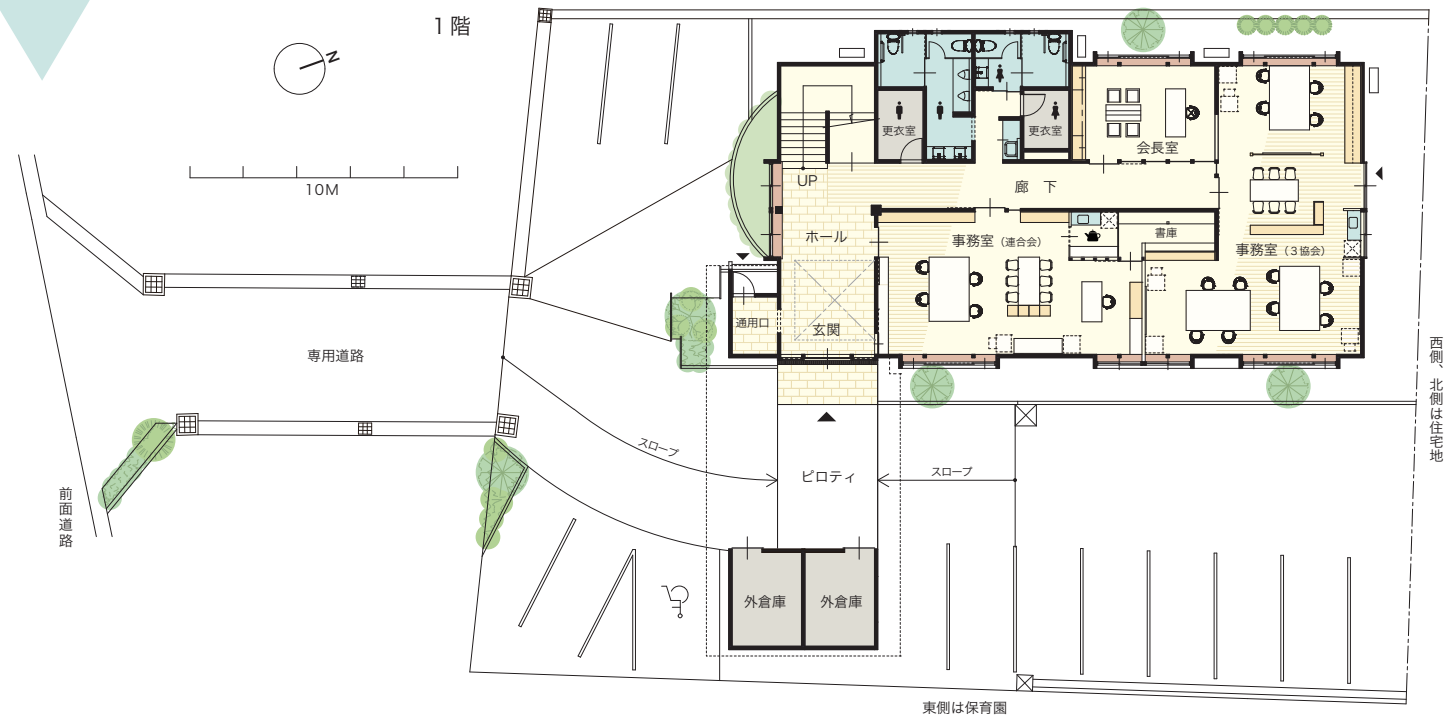


配置図



■配置計画

- ・南側道路から専用通路を通り、建物にアプローチする
- ・西側の境界線に沿うように建物を配置し、南側～東側は駐車場として、東側にある保育園との緩衝体とする
- ・ピロティを通り抜けて、敷地北側までアクセスできる

■平面計画

- ・平面計画は柱グリッド 1.82mとし、木造架構に間取りを滑り込ますことを基本とする

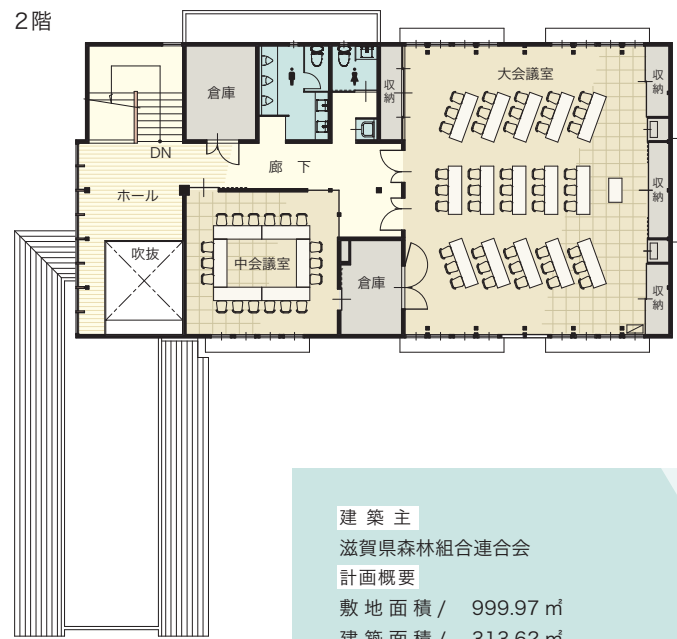
〈1階〉

- ・玄関から最も近い位置に、来訪者の多い森林組合連合会の事務室を配置。中廊下を通じて会長室、3協会の事務室へアプローチする
- ・階段は玄関を入れて正面に設け、多数参加の会議の際には2階の会議室へ安全にかつスムーズに誘導できる
- ・便所は上下階の配置を合わせて、排水音対策に配慮

〈2階〉

- ・大会議室は、一般流通材でつくるアーチ架構で10.92mの無柱空間を創出し、最大72人の収容が可能
- ・中会議室は、会議や講座の規模に合わせて、様々な机・椅子の配置を想定し、ゆとりが持てる広さを確保
- ・大会議室に必要な倉庫や収納は、異なる形状のものを部屋の周りに分散して設け、合計約20㎡を確保
- ・倉庫のひとつを大会議室と中会議室の中間に配置して、両会議室から直接利用を可能とした

2階



建築主

滋賀県森林組合連合会

計画概要

敷地面積 / 999.97㎡

建築面積 / 313.62㎡

延床面積 / 501.61㎡

(1階272.22㎡、2階229.39㎡)

構造 / 木造2階建て

DATE

原木供給 (延べ買付量: 約170㎡)

主に土台・大引き用桧 /

滋賀南部森林組合、坂本森林組合、綿向生産森林組合

横架材用杉 /

滋賀中央森林組合、高島市森林組合、滋賀北部森林組合

長浜市伊香森林組合、びわこ東部森林組合

製品供給

桧管柱 / 滋賀中央森林組合

桧管柱・広葉樹原板 / 東近江市永源寺森林組合

大径柱・特殊横架材 / 高島市森林組合

共同企業体 (設計・施工チーム)

総合設計 / 宮村太設計工房

構造設計 / 株式会社山田憲明構造設計事務所

施工 / 株式会社坂田工務店

木材調達・製材 / 株式会社伊藤源、有川井製材

プロデュース / エーゼロ株式会社滋賀支社

滋賀県林業会館

滋賀県森林組合連合会
滋賀県林業協会
滋賀県木材協会
一般社団法人 滋賀県猟友会

大津市大萱4丁目17番30号

〈この資料に関する連絡先〉

滋賀県森林組合連合会

☎077-572-6798

soumu@shigamori.or.jp



滋賀県林業会館

Forestry Hall Shiga

林業会館は 滋賀の木の展示空間

北部の強度に優れたスギと
南部の美しいヒノキや
広葉樹を適材適所に
使い切りました

道路やアプローチから
大きな窓越しに木造の
屋内が見える！



〈2F ホール〉
根曲がり杉の太鼓梁
朽木桑原の林業家さんが
丹精込めて育てた重太郎杉



〈玄関ホール〉
広葉樹のコラージュ壁面
広葉樹は永源寺など滋賀
県中部の森より



〈建物全体〉
美しい檜の柱、杉の内装材
柱材は甲賀や信楽など滋賀
県南部の森より



〈2F 大会議室〉
**6間スパンを支える
多角形アーチ構造**
横架材は長浜、米原、
高島など滋賀県北部
の杉材

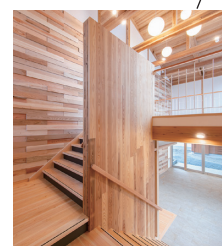


耐久性とデザインを両立した外装
鋼板とモルタルを組合せた外壁
1Fのみ杉赤身材の木製見切を配置

乾式遮音二重床
配線スペースを確保
し、床組みを現しとし
た下階への防音対策



びわ湖材で作った家具
木と他素材を組合せた
メリハリのあるデザイン



〈階段〉
CLT 壁面
びわ湖材で
作った CLT!

基礎断熱
気密性能が高く
省エネ効果あり



〈1F・2F ホール〉
**35cm 角
真っ赤な大黒柱**
朽木栃生の大きな
杉の木の赤身のみ
を使用した大黒柱

ベタ基礎
耐震性が高く
湿気が伝わりにくい



〈1F 事務室〉
4m材・レシプロカル構造
3間スパンを支える 2F 床組架構
住宅にも用いる 4m 規格材を使用
天井は張らず 2 階床組み現し



長屋門をイメージした風格のある佇まい

〈ピロティ〉
6m材・レシプロカル構造
4間スパンを支える屋根架構
大径木利用の提案として 6m
材を組合せて鉄骨造に匹敵す
るスパンを木造で実現
長浜や高島などの杉材を使用

木材調達

基本設計

特殊な材ではなく
一般に流通している
製材品を使用した
架構方針に基き
平面計画を行う

構造基礎解析により
部材断面の決定

構造伏図の作成

部材の拾い出し
材料明細書作成

製材所に情報伝達

実施設計

詳細設計・構造計算
による部材算定と
最終決定

構造図の作成

部材の拾い出し
材料明細書作成

製材所に注文

林業会館の建設にあたり使用する部材を、基本設計の初期の段階
で明確にし、木材調達をはじめました。
各森林組合や木材市場で状況を確認し、びわ湖材の特徴と流通の
現状（下記）を学び、それを踏まえて木材調達の方針を立てました。

■びわ湖材の樹種と品質

- ・県南部はヒノキの生産量が多く、甲賀ヒノキ等の良質材がある
- ・県北部はスギの生産量が多く、強度が高くなる傾向がある
反面、芯材が黒っぽくなりやすく、乾燥が難しい
- ・最近は広葉樹の生産に力を入れている森林組合もある

■原木の流通の現状

- ・森林組合が生産した原木のうち A 材は、主に県内 2 か所の
木材市（甲賀、長浜）に出荷されている
- ・B 材は、主に県外の加工業者へ出荷されている
- ・原木の末口は主に $\phi 14\text{ cm} \sim \phi 36\text{ cm}$
- ・長さは 4m 材が主で、6m 材は極少量である
- ・管柱用の 3m 材は、樹種を問わずほとんど流通していない

滋賀県林業会館建設における木材調達の方針

- ①構造材（ヒノキ）：土台・大引き
▷南部森林組合、坂本森林組合より丸太を仕入れて製品化
- ②構造材（ヒノキ）：柱
▷滋賀中央森林組合と東近江市永源寺森林組合より製品購入
- ③構造材（スギ・ヒノキ）：横架材
▷各森林組合から木材市に出荷された原木を仕入れて製品化
- ④大径柱、特殊横架材
▷高島市森林組合から製品（1 次製材品）を仕入れて製品化
- ⑤間柱 ▷ウッドリンク㈱よりびわ湖材を指定して購入
- ⑥合板 ▷林ベニヤ産業㈱よりびわ湖材を指定して購入
- ⑦内装材用の広葉樹
▷東近江市永源寺森林組合より原版を仕入れて製品化



信楽の山で柱材となる桧を伐採して
くださった林業事業者のみなさん



森林組合職員さんより産地による
木の特徴を教わる設計士の宮村さん



製材所では地域ごとに色分けして
木材を管理

■構造材の強度管理

横架材については全量のヤング係数を測定し、E70 以上
のものを使用しました。ヤング係数の測定は、JAS の強
度測定に使用されている測定機器をレンタルし、設計・
施工チームで行いました。



木材使用量

構造材 112 m³ (内びわ湖材 95 m³)

内装材 17 m³ (内びわ湖材 11 m³)

構造材製材品：71 m³ (全量びわ湖材)
合板・CLT：15 m³ (全量びわ湖材)
J パネル：17 m³ (県外製品)
野地廻下地材：9 m³ (全量びわ湖材)

造作材：8 m³ (全量びわ湖材)
羽目板：9 m³ (内びわ湖材 3 m³)

滋賀県産材
100% & ローコスト
両方実現するためのこだわり

1. 特殊な材ではなく一般に流通している製材品を使用
2. 設計段階から木材調達に取組む
3. コスト面で他の構造に対抗できる汎用性のある方法を採用
4. 耐震・防火や維持管理などの性能を追求

建物工事費 〈税別価格〉

1 億 2,500 万円

床面積 501 m² 25 万円/m²

建築工事費：10,080 万円
内 作付家具制作費：500 万円
訳 電気空調工事費：1,200 万円
給排水設備費：720 万円

活用した補助金

■びわ湖材利用促進事業（滋賀県）：1,000 万円
■地域型住宅グリーン化事業 補助金
優良建築物型（国土交通省）：500 万円

※ 左記金額に含まれないもの：設計監理費、外構工事費、家具備品費